

国税庁長官賞

未来へ繋ぐ税

柏市立柏の葉中学校 第三学年 鏑木 和葉

九十分、三千五百円。この金額は、この夏私が塾に申し込んだ夏期講習の一回の料金です。一日に、二回を約二十日分。とても高額になることは、すぐにわかりました。

そうになると、毎日六時間授業を行なっている中学校の授業料はいくら払っているのだろうと、気になって親に尋ねました。すると、少しの教材費と給食費しか払っていないと聞き、とても驚きました。しかも、払った給食費は食材費だけで、調理員さんのお給料や調理のための水道光熱費などは税金で賄っていると知りました。

私たちのために一年間で一体どのくらいの授業料がかかっているか調べてみると、国の支出で『文教及び科学振興費』というのがあり、公立の中学生の一人当たりの負担額が約百万円とありました。つまり、私の中学の授業料はすべて税金から支払われていたのです。

そういえば四月に配られた教科書には「この教科書はこれからの日本を担う皆さんへの期待をこめ、税金によつて無償で支給されています。」と、書いてあります。

小学校に入学してから今まで、自分が当たり前に使っていた百冊以上の教科書には本当は値段があり、それら全てが税金によつて購入されていたのです。

私は今まで買い物をする時に消費税を払っていましたが、高いなあと思いつつながら仕方なく払っているだけでした。しかし、一年間に私がお小遣いで買い物をする程度の消費税では、自分の授業料を払うのも、教科書を買うのも充分ではなかったのです。

そして、その学校に毎日安全に通えるのも、信号機のある横断歩道やきれいに舗装された歩道や街路樹、いざという時に自分を助けてくれる警察や消防など、様々な公共サービスを提供されて過ごしていたことに、今さらながら気がつきました。

納税はすぐに何かを得られるわけではありませんが、そのお金で社会全体を支え合い、豊かにし、結果的には自分の日常も幸せにしているのだと思います。

若い世代一人一人が税金というものに対して意識を持ち、責任を自覚するためには、少しずつでも税の役割やしきみについて学ぶことも大切だと、この作文を通じてわかりました。

これからは、納税で私たちの日常を支えてくれる人に感謝の気持ちを忘れず、そして将来は、次の世代の子どもたちの幸せな暮らしを、自分の納税で支えていきたいと強く思います。